

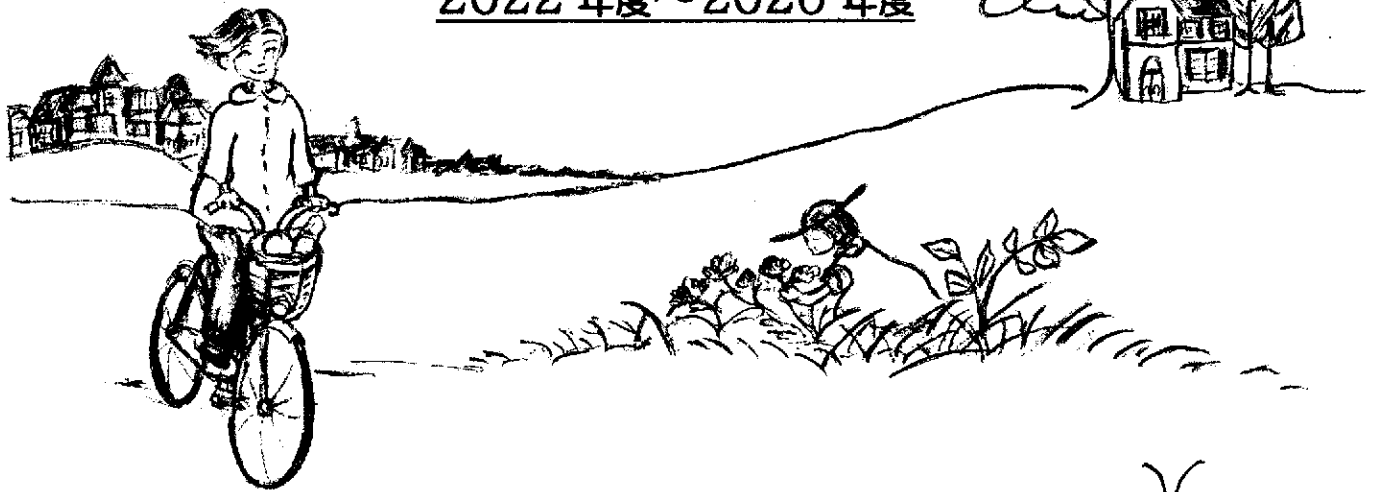


東大和武蔵村山社会福祉士会



中期計画

2022年度～2026年度



ちいき
共生社会を目指す
ソーシャルワーク

2022年6月

目 次

第1章 中期計画の策定にあたって.....	1
第2章 本会の活動の取り組みと評価、課題.....	1
第3章 中期計画の指針と取り組み.....	6

資 料

中期計画策定にかかわるアンケート調査結果.....	10
中期計画の主な検討経過ほか.....	14

第1章 中期計画の策定にあたって

1. 策定の趣旨・目的

東大和武蔵村山社会福祉士会（以下「本会」という。）は、2019年度に設立10周年を迎えた。10年の歳月のうちに福祉を取り巻く情勢は大きく変化し、我々の日々の業務についても時代に即し変化をみてきた。そのような中で社会福祉に携わる専門職としてその資質向上やネットワークの充実は一層求められており、本会が果たすべき役割も多岐にわたりがつ重要性を増している。

社会福祉士の資格を取得し、実際業務に携わっている者でも資質向上や情報共有の場は必ずしも十分ではない。特に仕事や家庭の事情等によっては、研修や交流の場に参加することができない場合も多い。地域に根差した活動を本旨としている本会としては、「身近」に「気軽」に会員へ交流や共に学ぶための場を提供する役割がある。また、地域共生社会の実現を目指す中で、他の専門職との連携や、広く市民に対する本会の理解向上を推進するための発信力の強化も一層重要なものとなっている。本会の活動をより充実していくため、単年度の事業計画を検討するにあたり、中長期的な視点を加えるため、本計画を策定する。

2. 中期計画の期間と位置づけ

中期計画の期間は、2022年度～2026年度の5年間とする。計画は、本会会則で定められた目的の達成や事業の実施に対しての、今後5年間の目標、指針、取り組みを示すもので、単年度の方針や事業計画に継続性を持たせ、本会の活動を充実・発展させていくものである。

第2章 本会の活動の取り組みと評価、課題

1. 本会の取り組みの検討にあたって

本会は、多摩六都地区会から独立して、2009年6月20日に発足の総会を開催し、「東大和武蔵村山社会福祉士会会則」（以下「会則」という。）を定め、活動を開始した。会則では、第2条で本会の目的を「東大和市及び武蔵村山市における社会福祉に関する知識及び技能の普及と啓発、地域における福祉サービスの発展を図るとともに、会員に対する倫理の確保や専門的技能の研鑽の機会を提供することによって、社会福祉の援助を必要とする地域住民の生活や権利の増進に寄与すること」と定めている。さらに、第7条で本会の事業については次のとおり定めている。

第7条 本会は第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 社会福祉の援助を必要とする地域住民の生活と権利の擁護に関する事業。
- (2) 会員の持つ力量を維持向上させるための研修の企画と実施。
- (3) 社会福祉事業及び社会福祉士に関する地域住民等への啓発及び宣伝。
- (4) 会員の士気の高揚と会員相互の親睦と融和に必要な事業。
- (5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業。

中期計画を策定するにあたり、本会の近年の活動を振り返り、その取組状況を検討して、評価と課題を示すこととする。検討にあたっては、会則第7条で掲げている事業を基本に行う。

2. 本会の取り組みの振り返りと評価、課題

(1) 社会福祉の援助を必要とする地域住民の生活と権利の擁護に関する事業

【取組状況】

2014年度～2019年度 東大和市福祉祭に「福祉なんでも相談」で参加、武蔵村山市社会福協議会ふれあいフェスティバル（2015年度から武蔵村山市「福祉まつり」に「展示コーナー」で参加。

※2020年度は新型コロナウイルスの影響でいずれも中止、2021年度は東大和市福祉祭（リモート）で本会の広報を行う。

- 2015年度・短編映画『ゴミ捨て場の子供たち』と講演会（参加37人）
・講演会「地域での障害当事者の役割～自立生活センターの活動を通して～」（参加37人）
・映画『風は生きよという』とトーク（参加300人）
- 2016年度・「ぬくもりのある地域づくり～南街こども食堂の活動～」（参加43人）
・映画『風は生きよという』とトーク（参加180人）
・講演会「子ども・若者 ソーシャルワーク」（参加27人）
・講演会「社会的養護の現状と課題～小規模化、地域化に向けて～」（参加24人）
- 2017年度・講演会「成年後見制度の活用～どんな時に利用するの」（概要説明と事例報告、グループトーク）（参加29人）
- 2018年度・短編映画『レイルロードスイッチ』と監督講演会ほか（参加30人）
- 2019年度・武蔵村山市福祉まつり 映画会（『生きるのに理由はいるの？』津久井やまゆり園事件が問いかけたものは…）
- 2021年度・ソーシャルアクションについてチームで研究開始

【評価】

- ①高齢福祉、障害福祉、児童福祉など幅広いテーマで実施し、一般市民の参加を得て、地域住民の生活と権利の擁護に関する事業を行った。
- ②映画会は多くの一般市民の参加者があり、市民との関係を深めることができた。
- ③東大和市福祉祭と武蔵村山市福祉まつりでは、本会の紹介と福祉に関する相談を行った。参加を重ねるごとに定着し、市民への周知ができた。

【課題】

- ①直接市民にサービス提供するような資源創設には十分関与できていない。
- ②市民の権利擁護を推進するためのソーシャルアクションについては一層の研究と実践が必要である。

(2) 会員の持つ力量を維持向上させるための研修の企画と実施

【取組状況】

2015年度・活動報告「介護老人保健施設の在宅復帰支援」など7回

- 2016 年度・活動報告「特定相談支援事業・災害派遣について」「放課後等デイサービス・障害者余暇活動」など 8 回
- 2017 年度・定期総会「地域と繋がる喜び ～現在の活動への歩み～」
 - ・定例会「スクールソーシャルワークの現状と課題」
 - ・活動報告「アルコール依存症回復に向けての活動」など 6 回
- 2018 年度・活動報告「訪問看護ステーションの活動」など 9 回
- 2019 年度・「社会福祉士の活動場所～求められる役割とやりがい」
 - ・「ソーシャルワーカーの実務実践の振り返り」
 - ・活動報告「高次能機能障害と家族の会」など 6 回
- 2020 年度・書籍『ソーシャルワーカー 身近を革命する人たち』を使つての研修
- 2021 年度・「司法福祉入門」(DVD による研修)

【評価】

- ①社会福祉士の役割や活動を学ぶことで、実践力を高める機会となった。
- ②会員などからの活動報告は、お互いの業務などを深く知る機会となった。
- ③定例会の終了後、講師も参加した懇親会では、講師の人柄にも触れ、また、会員同士の意見交換ができたことで、より深い学びの場となった。

【課題】

- ①会員の参加が固定化している。
- ②会員が参加しやすい形式や日時の設定等の方法を検討する必要がある。

(3) 社会福祉事業及び社会福祉士に関する地域住民等への啓発及び宣伝

【取組状況】

- 2014 年度～2019 年度 東大和市福祉祭に「福祉なんでも相談」で参加、武蔵村山市社会福協議会ふれあいフェスティバル（2015 年度から武蔵村山市「福祉まつり」）に「展示コーナー」で参加。
- ※2020 年度は新型コロナウイルスの影響でいずれも中止、2021 年度は東大和市福祉祭（リモート）で本会の広報を行う。（再掲）
- 2015 年度・福祉対応の『クロスロード』を体験しませんか （参加 26 人）
- 2017 年度・体験しよう！ 福祉対応の『クロスロード』（東大和市地域自立支援協議会・障害者相談員 平成 29 年度公開研修会）

※クロスロードとは「岐路」や「分かれ道」のこと。どちらか選ばなければならない場面で、自ら考え、また、他人の意見を聞き、皆で考えるゲーム形式の教材。本会は、平成 27 年にチームクロスロード（慶應義塾大学商学部吉川肇子研究室）と覚書を締結して活用している。

- 2018 年度・講演会「終活～どのような準備を始めたらよいの～」 （参加 83 人）
 - ・映画『ケアニン』と介護関係者によるトーク （参加 139 人）
 - ・「災害時に私たちができること～災害ボランティアセンターの実際と地域の役割」 （参加 34 人）

2021 年度・SNS による発信力向上のためチームで検討開始

【評価】

- ① 本会オリジナルの福祉対応に応用した「クロスロード」は、一般市民の参加者と一緒に考える機会となった。
- ② 映画会は多くの市民や関係者が参加し、啓発ができた。
- ③ 東大和市福祉祭、武蔵村山市福祉まつりでは、本会の紹介と福祉に関する相談を行った。参加を重ねるごとに定着し、市民への周知ができた。(再掲)

【課題】

- ① 映画会などで参加した地域住民の感想意見を吸い上げ、活動に活かすことも検討が必要である。
- ② クロスロードについては、実践を積んで継続的な啓発の取り組み方法を検討する必要がある。
- ③ SNS 等も含め発信力の向上が必要である。

(4) 会員の士気の高揚と会員相互の親睦と融和に必要な事業

【取組状況】

- ・ 2019 年度 定期総会&10 周年記念イベント (10 年間の活動を振り返りながら飲食懇親会)
- ・ イベント、行事後の懇親会を近隣の飲食店で実施

【評価】

- ① 2019 年度には 10 周年記念イベントを開催し、『設立 10 周年記念誌』を作成して、活動を振り返った。
- ② 定例会の終了後、講師も参加した懇親会では、講師の人柄にも触れ、また、会員同士の意見交換ができたことで、より深い学びの場となった。(再掲)

【課題】

- ① アンケートでは、会員同士の交流を望む声が多いが、交流・親睦目的の取り組みは少ない。交流・親睦を主目的とした検討をする必要がある。

(5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

【取組状況】

- (1) 定期総会
2009 年度 (設立総会) ~2021 年度 「活動方針」「事業計画」「事業報告」
「決算報告」「予算」「役員選任」について審議
(2020 年度と 2021 年度は新型コロナウイルスの影響で書面表決で実施)

- (2) 準会員・賛助会員の制度（正会員以外でも、本会の目的に賛同する場合は入会可）
- (3) 会員向けアンケート
 - ・2020年度「新型コロナウイルスへの対応について」
 - ・2021年度「中期計画策定にかかわるアンケート」
- (4) 会として講師派遣
 - ・2017年度 東大和市地域自立支援協議会・障害者相談員の研修会でのクロスロード講師派遣
 - ・2018、2019、2021年度 認定NPO法人主催のセミナー「若者のセーフティネット」の講師を務める
- (5) 他団体での役員
(社会福協議会の理事、ボランティア・市民活動センター運営委員会など)
- (6) その他
 - ①2018、2019年度武蔵村山市納涼祭に協賛金（花火大会）に参加
 - ②2020、2021年度は、新型コロナウイルスの影響で、拡大役員会は一部オンラインで開催

【評価】

- ①講師派遣など本会の信頼度が高まってきた。
- ②会員向けに「新型コロナウイルス対応へのアンケート」を行うことで、会員の抱える課題の状況を調べることができた。
- ③準会員や賛助会員制度を設けることで、会の基盤強化と事業への参加拡大にも寄与できた。

【課題】

- ①地域における本会の信頼度を高める、活動内容を広く周知していく必要がある。

第3章 中期計画の指針と取り組み

【本計画の目標】

次の3つの指針を柱に、社会福祉士として「みんなのプラットフォームづくり」を進めます。会員同士をはじめ、他の専門職、市民との関係を構築し、専門性の向上と市民の権利擁護に資する事業に取り組み、誰もが暮らしやすい「地域共生社会」の実現を目指します。

指針1 「顔の見える社会福祉士」～頼み、頼まれる関係をつくります～

(1) 地域住民・団体及び会員相互の交流を促進し、共に学びあう場をつくります。

【主な取り組み】

- ①ひきこもりなど地域の課題を関係団体と共に学びあう事業を実施します。
- ②会員相互の交流の場をつくります。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
関係団体との学びの場	検討	実施	継続	→	→
会員相互の交流の場	実施	継続	→	→	→

(2) 他の専門職との連携を推進します。

【主な取り組み】

- ①定例の研修参加への呼びかけを積極的に行います。
- ②他の専門職との連携を主目的とした研修会を行います。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
定例研修呼びかけ	実施	継続	→	→	→
他の専門職連携研修	研究	検討	→	実施	継続

(3) 地域の様々な機関からの講師派遣や役員受任等の依頼に応じ会員を派遣します。

【主な取り組み】

- ①社会福祉協議会役員、委員、行政関係、市内福祉施設等への役員派遣の依頼に応じます。
- ②講師等の派遣依頼へ対応します。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
役員派遣への対応	検討	実施	継続	→	→
講師派遣への対応	実施	継続	→	→	→

(4) SNS等広報を活用し、会員及び市民や関係団体への周知を図ります。

【主な取り組み】

- ①Twitter、フェイスブック等の活用を拡大、推進します。
- ②日本社会福祉士会や東京社会福祉士会の研修体系や活動について、会員へ情報発信し共に学びあう雰囲気を醸成します。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
Twitter、Facebook	研究	検討	実施	継続	→
研修体系等の発信	研究	検討	実施	継続	→

指針2「専門性と倫理の向上」～地域における学びの場をつくります～

(1) 様々な分野において会員向けの研修会を実施します。

【主な取り組み】

- ①生活困窮・低所得者支援の理解促進に関する研修を行います。
- ②会員の意見を受け、柔軟で多様なテーマの研修を行います。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
生活困窮等の研修	実施	検討	実施	検討	実施
多様なテーマでの研修	検討	実施	検討	実施	検討

(2) 多くの会員が参加しやすくなるよう、研修を多様な形態で、身近なエリアで実施します。

【主な取り組み】

- ①定例会は、座学、グループワーク、オンライン等毎年多様な形式を用いて実施します。
- ②書籍やDVDなどを活用した研修会を実施します。
- ③時間、曜日設定をできるだけ分散します。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
多様な形式での研修	実施	継続	→	→	→
書籍等を活用した研修	実施	継続	→	→	→
時間設定等の分散	実施	継続	→	→	→

(3) 会員が相互に教え、教わることができる場をつくります。

【主な取り組み】

- ①拡大役員会での活動報告、意見交換を継続します。
- ②テーマごとの研究や研修を行うため、必要に応じチームを設け実践します。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
拡大役員会の報告等	実施	継続	→	→	→
チーム制による実践	実施	継続	→	→	→

- (4) コロナ禍のような不測の事態にあっても専門職の本分が全うできるように会員が共に支えあう会を目指します。

【主な取り組み】

- ① コロナ禍のアンケートの最終報告を行います。次の類似事象に活用できるようなまとめを目指します。
- ② 困難な状況にある会員が他の会員へ相談やアドバイスをできるような方法を検討します。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
コロナ禍アンケート	実施	継続	—	—	—
会員へのアドバイス	研究	→	検討	→	実施

指針3 「地域力と対応力の向上」～専門職として地域の福祉課題に取り組みます～

- (1) 市民へ福祉の啓発を進めます。

【主な取り組み】

- ① 市民に広く関心を持っていただける内容の映画会を3年のうちに1回は実施します。
- ② 福祉祭や福祉まつりでの広報や相談を継続します。
- ③ 福祉版クロスロードのチラシを作成し周知を進めます。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
映画会の実施	検討	→	実施	検討	→
福祉祭等広報・相談	実施	継続	→	→	→
クロスロード周知	検討	実施	継続	→	→

- (2) 地域の困りごと（福祉課題）の把握に努め、必要な調査・研究に取り組みます

【主な取り組み】

- ① 拡大役員会などで各自の業務を通じて感じた福祉課題について話し合うことを推進します。
- ② 権利擁護の観点から特に注視すべき福祉課題に対しては、一層の調査・研究を進めます。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
福祉課題の話し合い	検討	実施	継続	→	→
福祉課題の調査・研究	—	研究	検討	実施	継続

(3) 市民の権利擁護を目的としたソーシャルアクションに取り組みます。

【主な取り組み】

- ①地域でソーシャルアクションを必要とするニーズの把握に努めます。
- ②必要とされる個人や団体から相談を受け必要な支援を行います。
- ③困難を抱える市民の権利擁護に必要とされる場合は、より具体的なソーシャルアクションの実現に努めます。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
ニーズの把握	実施	継続	→	→	→
相談支援の実施	検討	実施	継続	→	→
具体的アクション	研究	検討	実施	継続	→

(4) 地域の様々な団体とつながりを持ち、専門職として必要とされる場合は赴きます。

【主な取り組み】

- ①専門職としてアドバイザー等の依頼があった場合は積極的に会員を派遣します。またそのルールを作ります。

年次計画

内容／年度	2022	2023	2024	2025	2026
アドバイザー等の協力	実施	継続	→	→	→

中期計画策定にかかわるアンケート調査結果

【アンケート調査概要】

調査時期：2021年11月20日（土）～12月12日（日）

調査対象：正会員および準会員39名

調査方法：Googleフォーム

回答者数：19名

【アンケート調査内容】

質問1 あなたの所属について教えてください。（最も合致しているもの1つ）

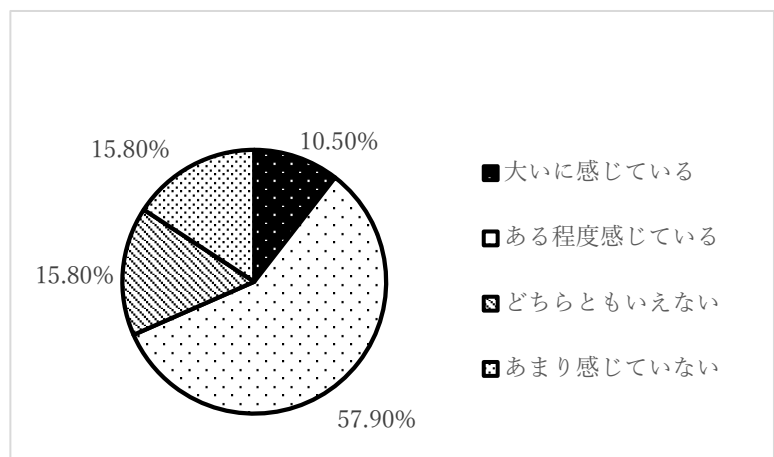
n=19

回答人数	所属（属性）
4人	地域包括支援センター
3人	福祉施設・事業所
3人	独立型
2人	行政職員
2人	社会福祉協議会
5人	福祉以外の事業所、民間企業、病院、フリーター、有限会社（各1名）

質問2 あなたは現在従事している業務や取り組んでいる地域活動などを通じ、社会福祉士としての専門性を発揮できていると感じていますか？

n=19

大いに感じている	10.5%
ある程度感じている	57.9%
どちらともいえない	15.8%
あまり感じていない	15.8%
全く感じていない	0%



質問3 あなたは今までに会のイベントや会議に参加したことがありますか？

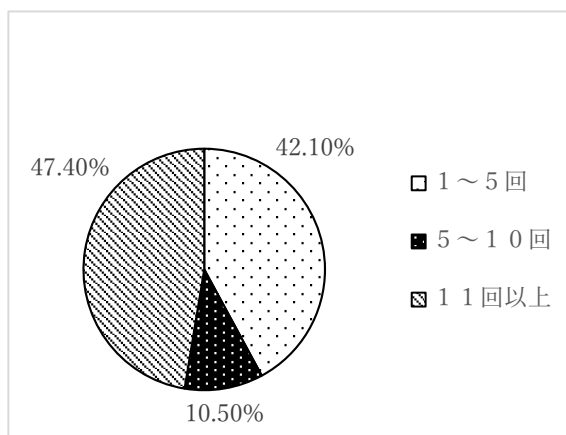
n=19

ある	94.7%
ない	5.3%

質問4 質問3で「ある」と聞いた方に伺います。参加したことがある回数はどのくらいですか？

n=19

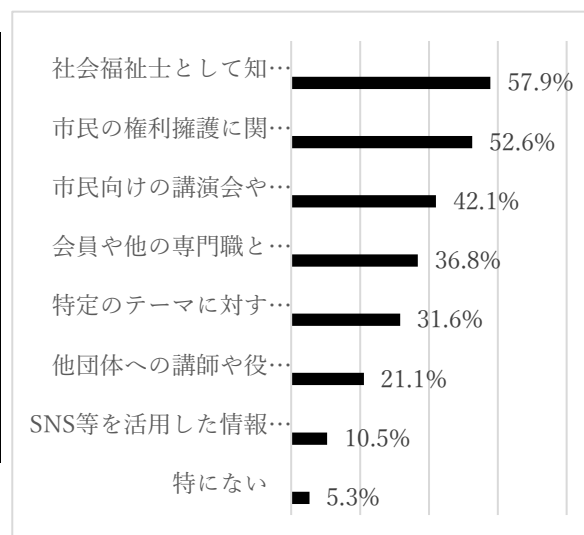
1～5回	42.1%
5～10回	10.5%
11回以上	47.4%



質問5 今後の会の活動にどのようなことを期待しますか。(3つまで可)

n=19

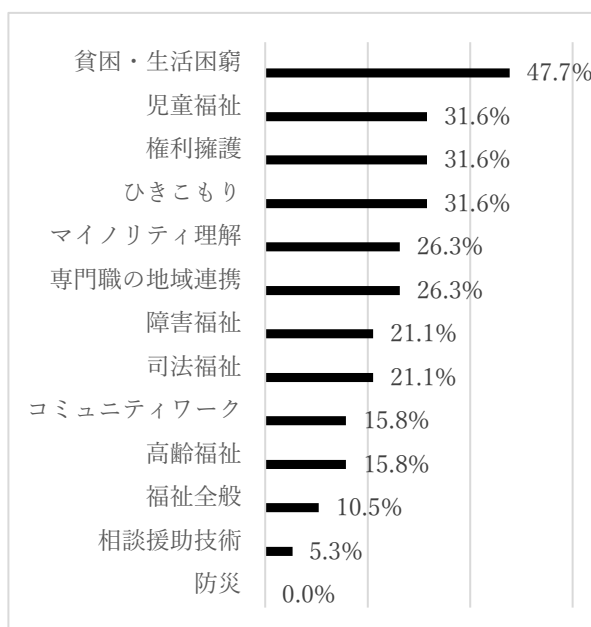
社会福祉士として知識や技術を高めるための研修	57.9%
市民の権利擁護に関する具体的な活動やソーシャルアクション	52.6%
市民向けの講演会や映画会、相談会などの啓発イベント	42.1%
会員や他の専門職との交流・親睦	36.8%
特定のテーマに対する調査・研究	31.6%
他団体への講師や役員の派遣	21.1%
SNS等を活用した情報発信	10.5%
特にない	5.3%



質問6 今後、研修等で学んでみたい分野はどれですか。(3つまで可)

n=19

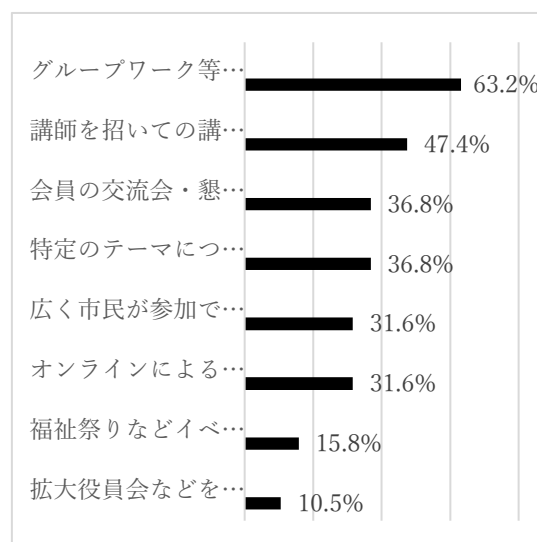
貧困・生活困窮	47.7%
児童福祉	31.6%
権利擁護	31.6%
ひきこもり	31.6%
マイノリティ理解	26.3%
専門職の地域連携	26.3%
障害福祉	21.1%
司法福祉	21.1%
コミュニティワーク	15.8%
高齢福祉	15.8%
福祉全般	10.5%
相談援助技術	5.3%
防災	0.0%



質問7 今後、会として行う活動について、どのような形態がよいと思いますか？(3つまで可)

n=19

グループワーク等活用した参加型の研修会(活動報告・書籍研修等)	63.2%
講師を招いての講演会・トークセッション	47.4%
会員の交流会・懇親会	36.8%
特定のテーマについての調査・研究	36.8%
広く市民が参加できる映画会	31.6%
オンラインによる研修や情報交換	31.6%
福祉祭りなどイベントへの参加	15.8%
拡大役員会などを活用した活動報告	10.5%



質問8 会の活動、中期計画等につきましてご意見等何でもご記入ください。

- ・新たな地区会の活動に期待します。
- ・継続は力なり、と思っています。他団体を見ている、基本は懇親及び情報交換、そしてそこから情報発信や問題提起のようです。
- ・研修をオンラインでも参加できるようになると参加人数が増えると思います。
- ・もっと多くの会員に気軽に参加していただけるよう、敷居を低くして、リモートと対面のハイブリッドなども検討していくことが必要かもしれません。
地区会に入っただけでも、なかなか参加できない方々のニーズを把握することが大切ですね。今回のアンケートの返信が少しでも多くなることを願っています。
- ・平時の生活相談のほか災害時やコロナ禍の下で、市民相談会をすみやかに開催できるようにするために、社会情勢を先取りできるように日頃の勉強が必要と思います。
- ・持続可能な地区会のために、中期計画策定は意味があると思います。
- ・毎回創意工夫されていて、参加できないことを大変残念に思っております。全てに参加できたらとても学びが多く向上できると思っています。
- ・応援しています。
- ・みんなが参加したいと思える活動、参加者が増えるような活動でありたいです。
- ・なかなか会に参加できず申し訳ございません。今後ともよろしく願いいたします。

中期計画の主な検討経過（2021年度）

日程	会議名・検討内容
9月24日	※第5回拡大役員会 (中期計画策定要領案を報告)
10月22日	第6回拡大役員会 (中期計画策定要領と検討チームで計画案を作成していることを報告)
11月11日	※検討チーム第1回会議 (活動の評価・課題、計画の目標等、会員向けアンケートの検討)
11月19日	第7回拡大役員会 (アンケートの内容等の報告、検討)
12月17日	※検討チーム第2回会議 (アンケート結果、活動の評価・課題、指針について報告、検討)
1月21日	第8回拡大役員会 (アンケート結果、第1章「中期計画の策定にあたって」、第2章「活動の取り組みと評価・課題」、第3章「指針と取り組み」の報告、検討)
1月28日	※検討チーム第3回会議 (第2章、第3章の修正と資料編の検討)
2月18日	※第9回拡大役員会 (計画全体の案の報告、検討)
2月25日	※検討チーム第4回会議 (計画全体の案、検討、確認)
3月25日	※第10回拡大役員会 (計画全体の修正案の報告、検討)

〈※印はオンライン会議〉

[計画策定メンバー]

○田村 隆

◎浅見 拓紀

初鹿 俊彦

酒井 素史

(◎はリーダー ○は事務局)